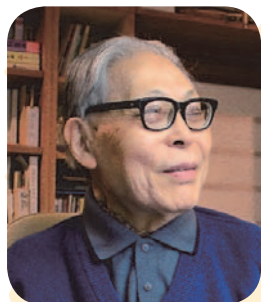


かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>



読書のまち・かわさき 展示会と講演会のお知らせ

絵本作家かこさとしさん

『かこさとし 川崎の思い出』

—1950年代のセツルメント活動と子どもたち—

『からすのパンやさん』などで知られる絵本作家・かこさとし（加古里子）さん。そのかこさんがかつて、川崎の地域生活に密接な関わりを持ってらっしゃったことを、ごぞんじでしょうか。

1951年、現在の幸区古市場に、東京大学の学生らにより設立された社会事業施設・川崎セツルメント。医療支援や児童教育など住民生活向上のための助力を行うこの場所へ、会社員だったかこさんは休日ごとに通い、子どもたちへ自作の紙芝居などを見せていました。

紙芝居が面白くなければ、かこさんに遠慮することなく、多摩川へザリガニ取りに行ってしまう子どもたち。彼らと遊び、笑い、共感し、そして彼らを観察することで、創作活動の基盤が育てられていったとかこさんは後の著作で語っています。

「ザリガニ取りの方が面白いわけだから、紙芝居ではそれ以上のものを見せなければなりません。こうして失敗もくり返ししながら紙芝居を作り、それと同時に子どもからは遊びを教わっていました（『加古里子 絵本への道』より）」

「目の前にいる、この川崎のセツルメントの三十人とか四十人の子どもたちに届くものがつくりたい。ただ、この一念で続けてきたのです。」（『未来のだるまちゃんへ』より）

2013年、87歳で『からすのおかしやさん』等を出版されたかこさん。これまでに出版された作品は600点以上にのぼり、その分野も物語、科学、歴史、児童文化研究など多岐にわたります。子どもたちへの深い愛情と優しさをこめて描かれる作品の源が、川崎にゆかりが深いとは嬉しいですね。

今回の展示会では、当時、子どもたちとの触れ合いの中でかこさんが描いた川崎のスケッチや子どもたちの作品などを初公開いたします。

子ども時代にかこさんの名作を読んで育った方も、現在子育て真っ最中の方も、あらためて今、かこさんの魅力溢れる作品世界にふれてみませんか。

展示会

- 期 間 平成27年2月17日（火）～平成27年3月15日（日）
- 時 間 平日 9:30～21:00 土日祝日 9:30～17:00
- 会 場 川崎市立中原図書館 6階 多目的室（入場自由）
※3月1日（日）のほか、一時的に閉室の場合あり

講演会

- 日 時 平成27年2月17日（火） 10:00～11:20
- 会 場 川崎市中原市民館 2階 多目的ホール
- 対象・定員 川崎市に在住・在勤・在学の方、300名。無料。
- 申込み 往復ハガキに参加希望者全員（2名まで）の ①住所 ②氏名 ③電話番号 ④在勤・在学の方 はその旨を記入し、返信部に返送先を記入の上、次の住所まで。
〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301
中原図書館「かこさとし講演会」あて
- 締 切 平成27年2月3日（火） **必着**
※定員を超えた場合は抽選になります。
（問合せ 川崎市立中原図書館 電話 044-722-4932）



第25回



(このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。)
今回は、かこさとしさんにスポットをあてて紹介します。

A:『未来のだるまちゃんへ』

かこさとし／著 文藝春秋 2014

かこさんの子ども時代から現在までの生い立ち、絵本作家としての思いや考えなどについて綴られています。川崎セツルメントでの子どもたちとの触れ合いを通して、かこさんが感じたこと、子どもたちから学んだことなどに触れながら、作品に込められた子どもたちへの力強いメッセージが感じられ、大人も元気がもらえる1冊です。



A

B:『加古里子絵本への道 ー遊びの世界から科学の絵本へー』

加古里子／著 福音館書店 1999

Aでご紹介した『未来のだるまちゃんへ』と同様にかこさんの自伝的な本ですが、紙芝居や絵本等の表現法や画面の工夫、技術的なことなどを、かこさん自身の作品・イラストなどを用いながらより詳しく紹介しています。また、セツルメントの写真のほか、作品制作時のエピソードやかこさんが影響を受けた人物・作品などについても収録・語られています。



B

C:『どろぼうがっこう』

加古里子／絵と文 偕成社 1973

現在は絵本になっていますが、初めはセツルメントにやってくる子どもたちに見せるために作った紙芝居で、当時書きかけの論文の下書きの裏に、しかもぺらぺらのB5くらいの小さな紙に、黒一色の走り書きで書かれたものだったそうです。ところが子どもたちは「もういっぱいやって!」と大喜び。子どもだけでなく、大人も楽しいお話です。



C

国立国会図書館デジタル化資料 送信サービスが利用できます!

これまで国会図書館内での利用に限られていた国会図書館デジタル化資料の一部が、川崎市立図書館でも閲覧できるようになりました。

デジタル化資料送信サービスは、国会図書館でデジタル化した資料のうち、主に入手困難な図書・商業出版されていない雑誌や論文等を、国会図書館から承認を受けた公共図書館等で閲覧・複写ができるサービスです。

コンテンツ名「国立国会図書館デジタルコレクション」

デジタルコレクションには、次の3種類があります。川崎市立図書館で閲覧できる資料は①と②です。

- ① インターネット公開資料 …… ご自宅のインターネットからも自由にアクセスできます。
- ② 図書館送信資料 …………… 川崎・幸・中原・高津・宮前・多摩・麻生図書館でご覧になれます。
- ③ 国立国会図書館内限定資料 … 国会図書館以外では閲覧できません。国会図書館に直接お出かけください。

図書館送信資料の閲覧には…

川崎市立図書館の貸出カードが必要です。1回のご利用は30分まで、1日2回までご利用いただけます。

※なお、同コレクションの「歴史的音源」も川崎・幸・中原・高津・宮前・多摩・麻生図書館でご視聴いただけます。



3号に1回のペースで「川崎市内の乗り物・交通機関」をキーワードに様々な話題を取り上げてご紹介してきた「かわさき車窓物語」。今年度は市制90周年を記念して毎号で連載していました。「汽笛一声〜♪」のシリーズ最終回です。

汽笛一声〜♪の新橋駅より古い川崎駅(3)

川崎駅が開設された当初は、川崎駅と旧東海道を結ぶ通路は低地にあったため、降雨の度に雨水が路上に溢れて60～90cmも冠水してしまい、鉄道利用者は止む無く舟で往復する状態でした。近世の主要道である東海道は盛土により地盤が高くなっているうえ、暴れ川・多摩川に隣接する川崎宿では宿機能の中心を担う問屋場付近が水害に備え更に高くなっていました。市役所通りと旧東海道の交差点を市役所側から眺めるとその高低差がよく判ります。一方では鉄道の線路も平地に2メートル前後の盛土を施した路盤上に軌条を敷設しており、東海道と鉄道という堤状の盛土地帯に挟まれた土地が梅雨や台風の季節に冠水することは当然でもありました。鉄道を管轄する鉄道寮と地元神奈川県では通路の新規築造について早くから合意していたのですが、内務省への管轄替え等を経て明治7年8月に漸く着工に漕ぎ着けています。

新規の停車場道は旧東海道と川崎駅をほぼ最短距離で結んで築造され、長さ約230メートル、路

面幅5.4メートル、盛土の高さ平均1.2メートルというもので、二ヶ領用水の悪水路（余り水を多摩川へ流す下水道のようなもの）を長さ4.2メートルの橋で跨いでいました。また、堤状の通路の南側に溜まった雨水を多摩川へ流すための水路が3本、通路の基部を貫く形で設けられていました。この停車場道は明治14年測量による「迅速図」にも記されており、今日では京急川崎駅前を通り市役所方面とJR川崎駅を結ぶ道に比定できます。

当初の鉄道駅は「ステーション」「停車場」と呼ばれることが多く、「駅」という場合は旧宿場を指していました。前述の「迅速図」でも旧川崎宿一帯は「川崎驛」とあり、鉄道駅は「川崎停車場」と明記されています。本稿では誌面の関係上「駅」と表記させて戴きました。なお、鉄道駅の長の職名は今日同様の「駅長」に統一されており、文中には「川崎駅長」という記載も随所に見られます。

フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

わが街・川崎のJ1サッカークラブ「川崎フロンターレ」と図書館の合同企画です。

第17回は、井川祐輔選手が選ぶ1冊を紹介します。

『ジェノサイド』

高野和明／著 【(株)KADOKAWA角川書店】 2011年刊（角川文庫2013年刊）

《内容紹介》 民間軍事会社の傭兵・イエーガーは、ホワイトハウスから極秘にだされた任務を受けアフリカのコンゴへ。同じ頃、東京では薬学を専攻する大学院生・古賀研人のもとに急死したはずの父から謎の依頼が。アフリカの奥地と東京で無関係に進んでいるように見えた事態が、人類絶滅の可能性をも孕んだ最高機密に関わる展開に…

KAWASAKI
Frontale



井川祐輔選手より

繋がりがなさそうなストーリーが初め続くけど、それが謎なところから引き込まれ・・・、話が繋がりましたらもう遅い！映画を見ているような気分で一気に読めました。内容はちょっと残酷な部分があるけど、それがリアリティを出しているので耐えられる人は読んでみてください（笑）。読書にどっぷり浸かりたい人にお奨めです。

【DF4 井川祐輔選手】

守備だけではなく、最終ラインからボールを配球して攻撃の起点にもなれるセンターバック。最近はサッカーと子育てに追われる毎日で、その合間に読む本は時間を忘れさせてくれる“中毒性”のある小説がお気に入り。



自動車文庫は今年も元気に走っています！

川崎市では図書館から遠い地域にお住まいの方に向けたサービスとしてトラックに約3300冊の本を積んで公園などで貸出を行っています。

平成27年1月からは、麻生区に2つのポイント「五力田」「細山」が加わり、全21箇所のポイントへ2週間に1回の巡回を行っています。

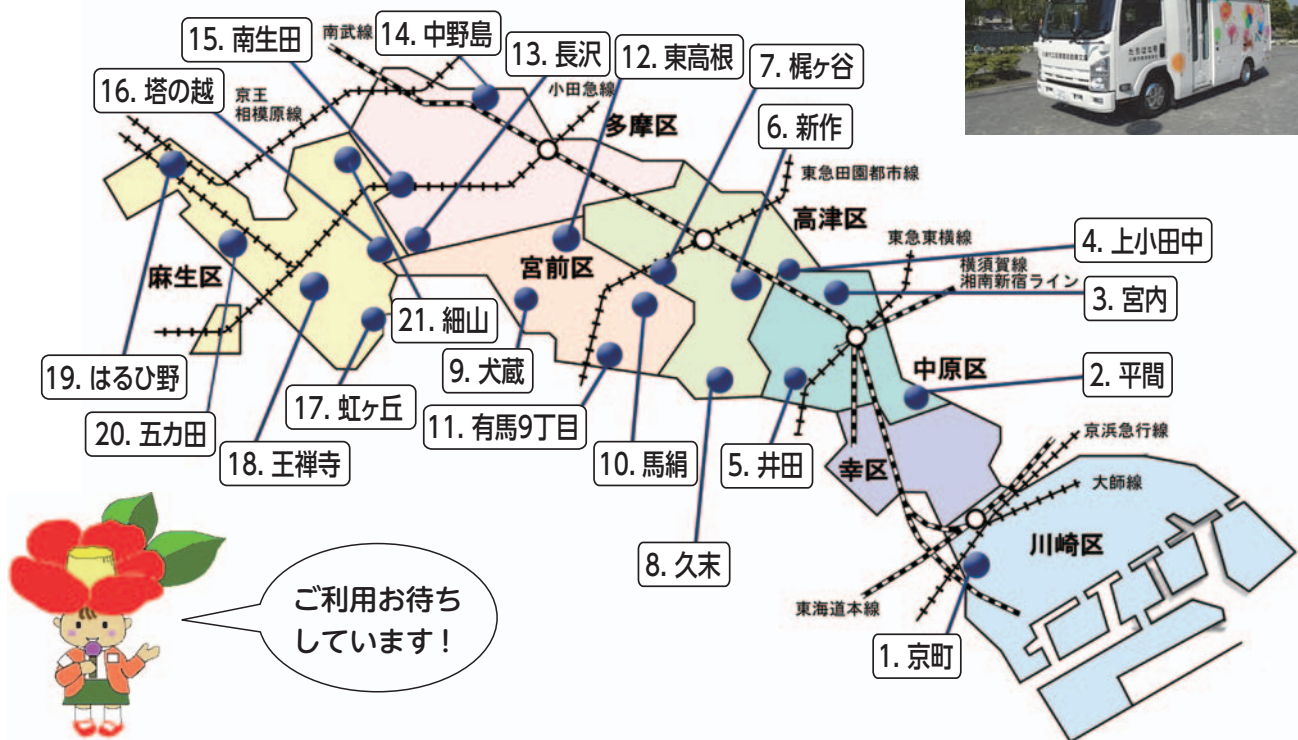
【貸出など】

川崎市立図書館の貸出カードで、どなたでも本を借りることができます。貸出カードをお作りいただいていない方は、お名前とご住所が確認できるもの（免許証・保険証など）があれば、自動車文庫の各運行ポイントで貸出カードを発行いたします。

また、各ポイントでは、本の貸出だけでなく、本の予約も受け付けています。読みたい本が見つからないときは、「予約申込書」に必要事項を書いてスタッフにお渡しください。

図書館ほどたくさんの本は積んでいませんが、明るく元気なスタッフが本の予約や相談をお受けいたします。お気軽にご利用ください。

自動車文庫運行マップ



詳しい利用方法や運行するポイントの情報などは図書館ホームページをご覧ください。

図書館ホームページ：<http://www.library.city.kawasaki.jp/riyouhs.html#kuruma>

お問い合わせは … 宮前図書館 044-888-3918

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011)	高津図書館(822-2413)	麻生図書館(951-1305)	大師分館(266-3550)	橘 分館(788-1531)
幸 図書館(541-3915)	宮前図書館(888-3918)		田島分館(333-9120)	柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)	多摩図書館(935-3400)		日吉分館(587-1491)	菅覧所(946-3271)